



(早朝移動例会にて)



千歳ロータリーの森林 Chitose rotary forest



千歳ロータリークラブ
第2510地区 第7グループ

Q) 「千歳ロータリーの森林」とは？

A) 千歳ロータリークラブが北海道営林局（現在の北海道森林管理局）との間で契約している分収造林事業によって整備された人工林

Q) 分収造林事業とは？

A) 森林における所有及び経営形態の一種です。森林を土地の部分と樹木の部分（地上権）を所有し経営する権利に分離したうえで、経営の結果として樹木が生み出す収入（伐採した樹木の売却利益）は土地代及びマネジメント代として、2者で決めた割合で折半（分収）するという仕組みであり、森林の有効利用・健全化に有効な手法の一つです。

発行者
千歳ロータリークラブ 分収造林組合
組合長 平間和弘
住所 千歳市北栄2丁目2番1号
ANAクラウンプラザホテル千歳内
TEL 0123-22-2311



「千歳ロータリーの森林」の概要

契約者：北海道営林局長
 場所：千歳市蘭越恵庭事業区5372林班
 面積：2.811ヘクタール(約3町歩弱)
 期間：80年間(1991年～)
 植栽樹種：アカゾノ松 7300本
 ※1回目の間伐実施により現在は3600本

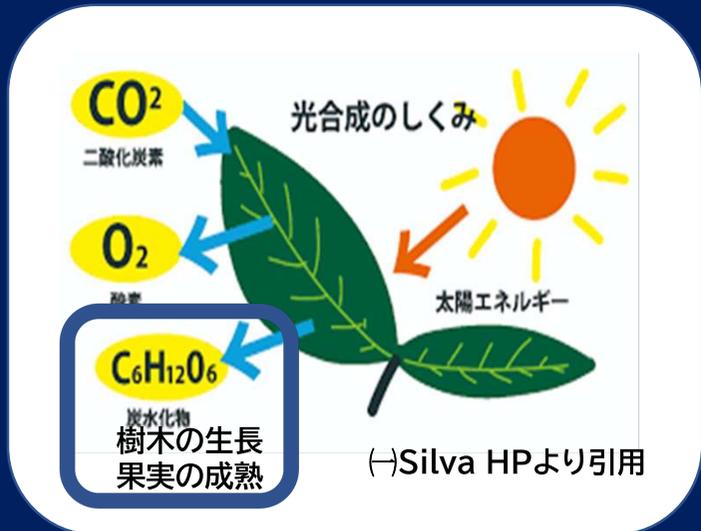


(1992年植樹時)
 ※後列左から2人目
 初代組合長 丹治秀一氏

(2001年 10年経過)

森林はCO2を吸収する

- 植物はCO2と光によって酸素と炭水化物を生成します。
- この炭水化物が成長する源となります。
- 一年で成長した部分に含まれる炭素割合を算定することで年間のCO2吸収量を想定できます。(地域・樹種・樹齢により異なります)



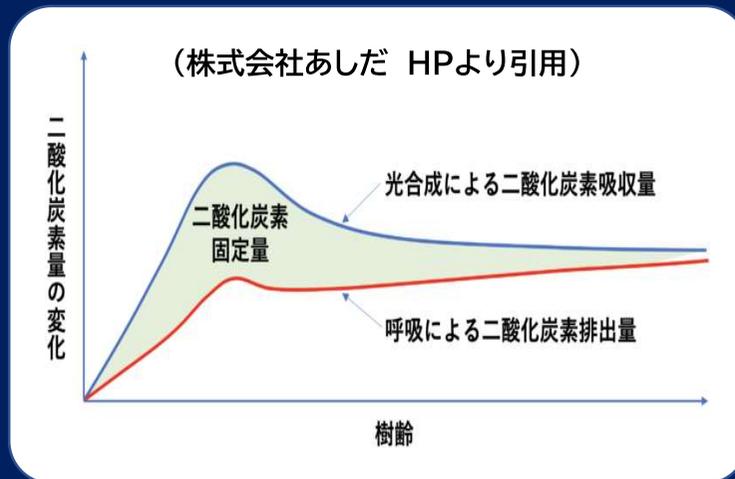
吸収しているCO2量は？

一般的森林のCO2吸収量は以下の特徴があります。

- 針葉樹と広葉樹では針葉樹の方が吸収が大きい。
- 樹齢11～40年までの若い木が吸収量大きい。
- 40年以降の高齢樹は年々吸収量が減少してしまう
- 2024年時点で「千歳ロータリーの森林」が吸収しているCO2量を試算したところ年間20トン以上の吸収量があるとの結果が得られました。

CO2吸収量 = 20トン以上/年

(参考)森林のCO2吸収量イメージ



例会実施とCO2排出量

- 例会を実施するにあたり、自動車による移動(石油燃料)・会場照明用(電力)・会場空調(電力)・昼食(ガス)等のエネルギーを使っており、これによりCO2を排出しています。
- この量を算定したところ例会開催一回当た最大でも**250kg程度**の排出をしているとの結果。
- 吸収しているCO2が排出しているCO2量を大きく上回っています。ということは現時点で私たちはCO2排出分を森林での吸収量でオフセットしており「ゼロカーボン例会」が成立していると考えています。(会員数75名での試算結果による)



(ポイント)

- 植物は光合成でCO2を吸収している一方で呼吸によってCO2を排出している。この差し引いた量がCO2吸収量となる。
- 樹齢を重ねるとその差が小さくなる(吸収量が小さくなる)



今後の取り組み

- 2071年まで継続する長期事業であり今後も継続的な保全活動が必要となります。
- 現在はゼロカーボン例会が成立していますが、今後は2回目の間伐ならびに高齢樹化によりCO2の吸収量は減少します。
- このため森林の管理を継続しながら、CO2の発生を抑制する取り組みを進める必要があります。
- 例えば徒歩での例会参加・乗合での移動・照明の節引き・フードロスの削減・エコカーへの更新等々...出来る事から始めたいと考えています。